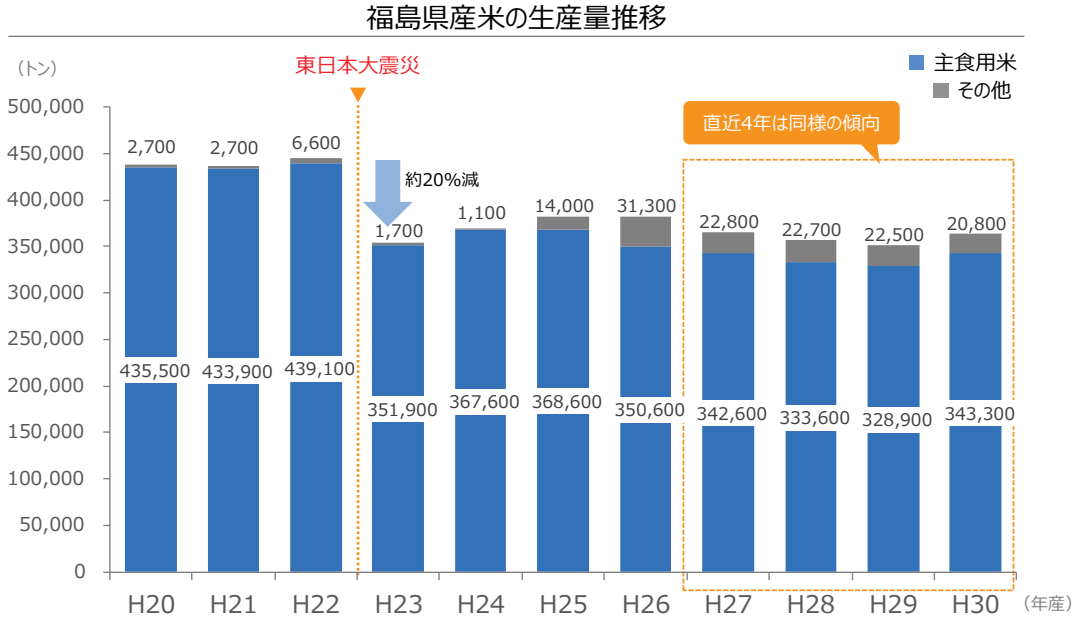

品目別調査結果

- 福島県産米の生産量は、震災後、平成23年産が対前年比約20%減少した後、徐々に回復している。
- 平成25年産以降、飼料用米などの主食用以外の割合が一定程度見られ、平成27年産以降ほぼ横ばいである。



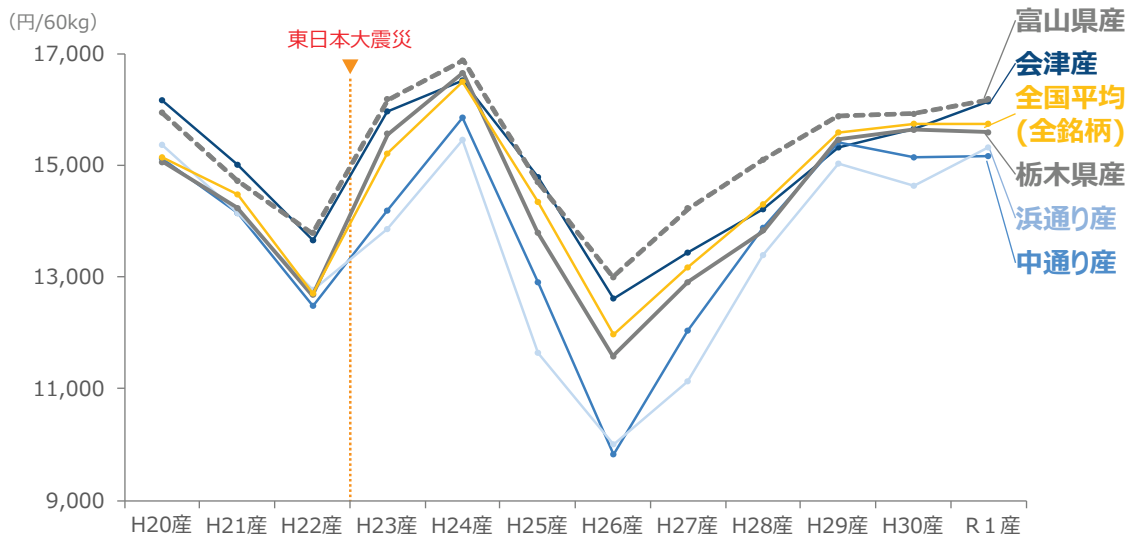
データ出所：農林水産省「作物統計」

※水稲の収穫量の数値

福島県産米の相対取引価格の推移（概要調査）

- 会津産コシヒカリは、富山県産コシヒカリを上回る価格ポジションであったが、震災直後にポジションが入れ替った。令和元年産においては全国平均価格を上回っているものの、富山県産コシヒカリとほぼ同等のポジションになっている。
- 中通り産・浜通り産コシヒカリは、震災以前は栃木県産コシヒカリの価格ポジションとおおむね同じであったが、震災直後に大きく差が広がった。平成28年産以降、価格差はやや縮小してきているものの、現在でも栃木県産コシヒカリを下回っている。

会津・中通り・浜通り産コシヒカリと栃木県産・富山県産コシヒカリと全国平均の相対取引価格推移

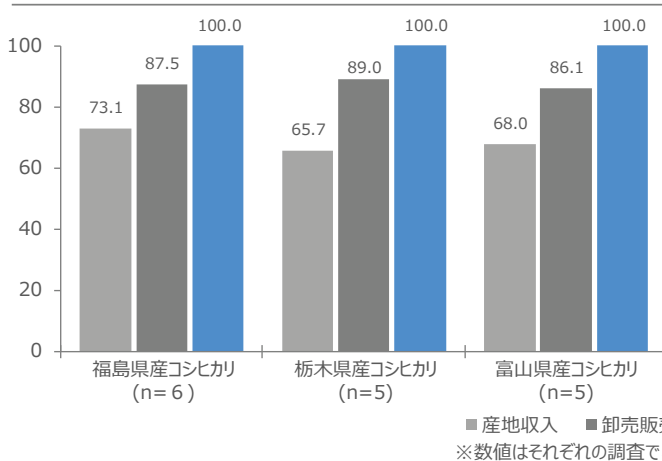


データ出所：農林水産省 米穀の取引に関する報告
※平成30年産、令和元年産は10月の価格

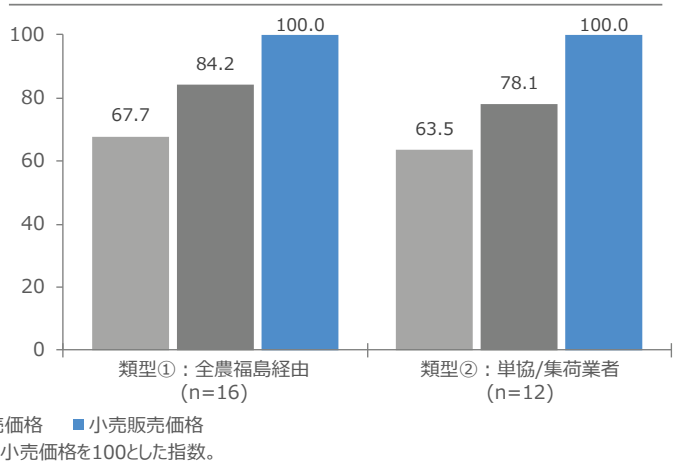
※出荷業者(年間玄米販売量5,000トン以上)と卸売業者などとの間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格を加重平均したもの。運賃(最寄りの大消費地への運賃。全農福島出荷分はH27年産から運賃を含まない)、包装代、消費税を含む1など米の価格。

- 栃木県産米や富山県産米との比較において、産地・卸・小売の各流通段階の価格形成の構造の差異は僅かであった。
- 福島県産米の産地からの出荷ルート別の比較では、「全農福島経由」、「単協/集出荷業者経由」で流通段階ごとの価格形成においても、産地・卸・小売の各流通段階の価格形成の構造の差異は僅かであった。
 - 近年、倉庫での保管費用や運搬費などの経費が高騰していることから、卸売業者も卸売価格を上げざるを得ない状況になっている。
 - 福島県産米に限らず、消費者の米需要が減少傾向にあり、小売価格引上げの対応が出来ないため、産地収入と卸売販売価格の割合が全体的に高くなっている。

米の価格形成 1（産地間比較）



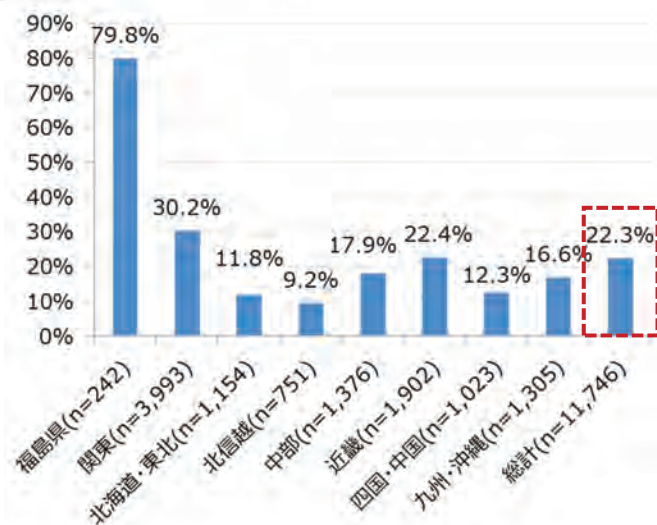
米の価格形成 2（流通経路間比較）



福島県産米の消費者の購買経験と評価（アンケート調査）

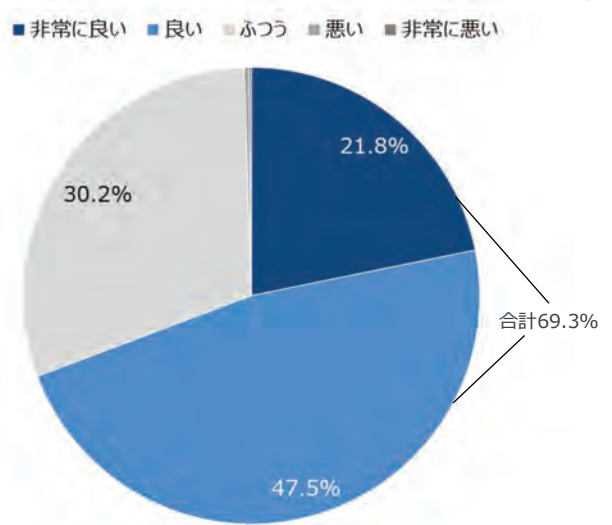
- 全国の消費者のうち、福島県産米を購買した経験がある消費者は22.3%であった。
 - 福島県内居住者では79.8%、関東居住者では30.2%であった。
- 購買経験者に福島県産米の評価を尋ねたところ、「非常に良い」「良い」が約7割を占めた。

福島県産米の購買経験率



※購買経験率=1度でも購買したことがある人数/回答者数
 ※記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っただけは購買経験なしとなる。

福島県産米購買者の評価 (n=2,619)



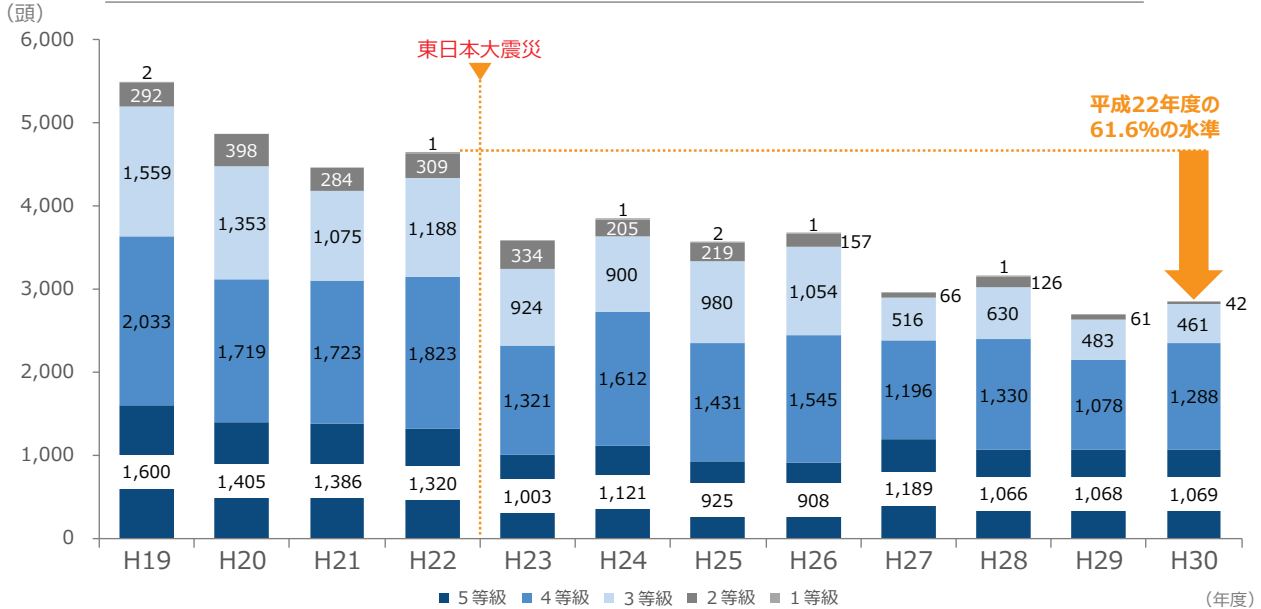
※福島県産米を買ったことがある回答者のみに尋ねた質問。

福島県産牛の出荷頭数の推移（概要調査）

米 牛肉 桃 あんぽ柿 ビーマン ヒラメ 他の品目

- 福島県産和牛（去勢）の東京都中央卸売市場への出荷頭数は、震災後、横ばいからやや減少傾向で推移している。（平成30年度は平成22年度の約61.6%）
- 出荷頭数に占める上位等級（5等級・4等級）の割合は前年度と比較して増加しており、平成30年度は約82%となった。

東京都中央卸売市場に対する出荷頭数の推移（福島県産和牛・去勢）

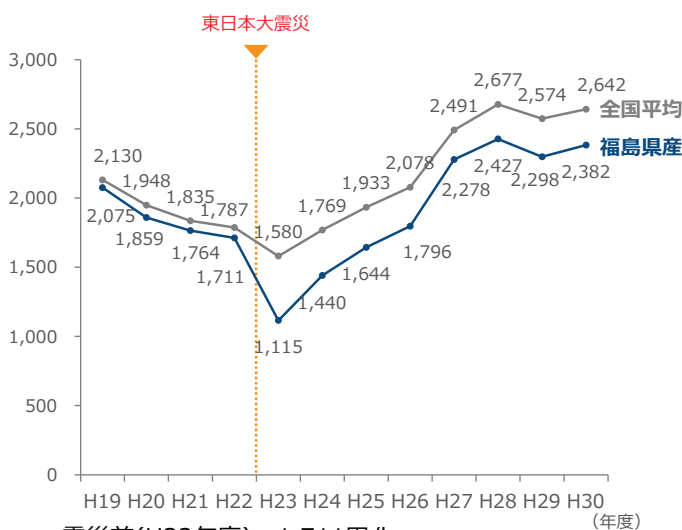


データ出所：東京都中央卸売市場「市場取引情報」

福島県産牛の枝肉価格の推移（概要調査）

- 福島県産和牛の枝肉平均単価は、全国平均と同じく上昇傾向で推移している。
- 全国平均との価格差は平成23年度に拡大した後、平成27年度にかけて縮小したが、平成28年度以降は再度価格差が拡大し、平成30年度は-9.8%となった。

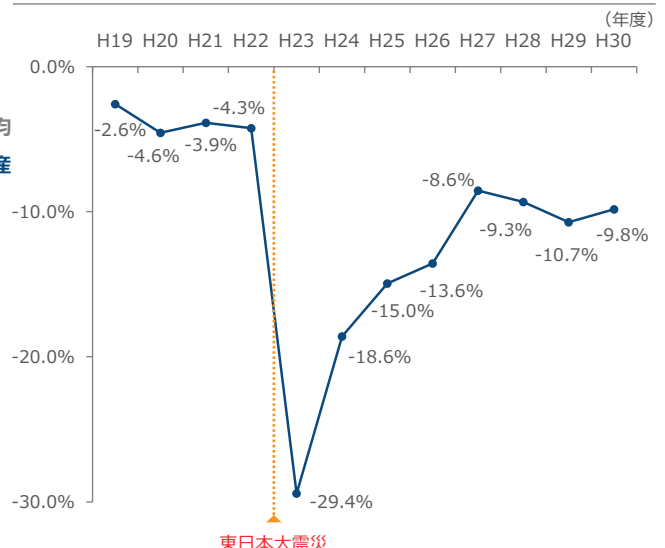
卸売市場平均価格推移（和牛全体）



- 震災前(H22年度)：1,711円/kg
- 震災後(H30年度)：2,382円/kg(+671円/kg)

データ出所：東京都中央卸売市場「市場取引情報」

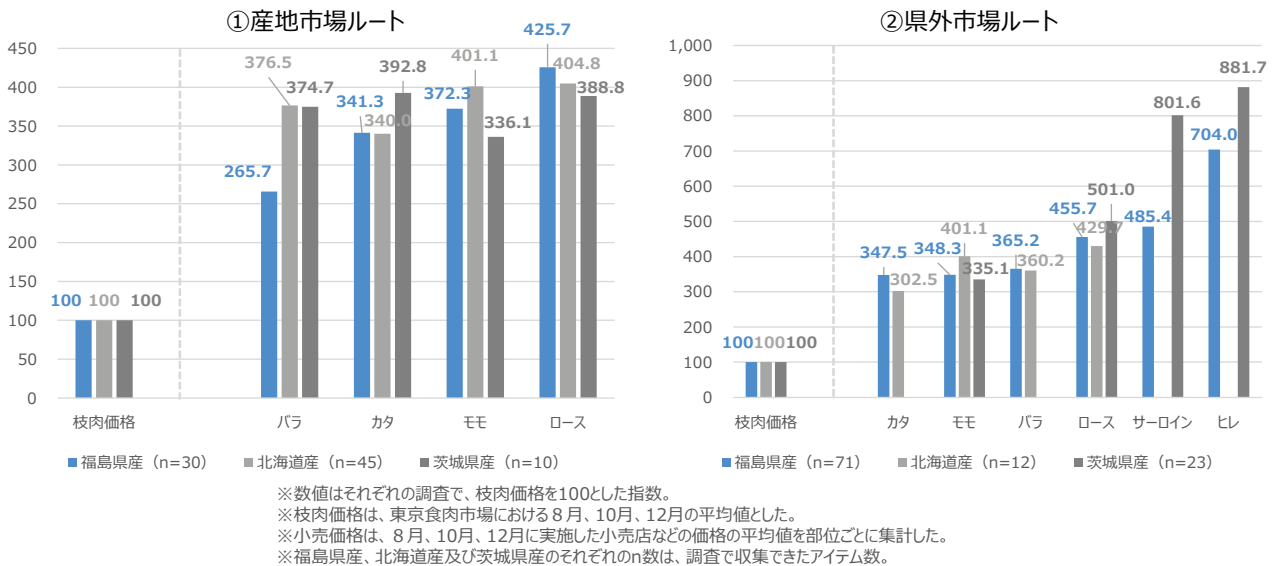
全国平均との価格差推移（和牛全体）



※福島県及び全国平均ともに、枝肉価格は去勢と牝の平均単価を用いた。

- 北海道産和牛や茨城県産和牛との比較では、部位ごとの小売価格に差異はあるものの、流通段階ごとの価格形成に明確な傾向は認められなかった。
- 県外市場ルートについて、高価格部位で福島県産と茨城県産の間に差がみられるが、これは本調査における茨城県産の販売店舗が食肉専門店のみである一方、福島県産は食肉専門店に加えて食品スーパーが含まれることから、店舗属性の違いが影響したと考えられる。
- 調査した食肉専門店における福島県産と茨城県産の同一部位（ヒレ）は同一価格であった。

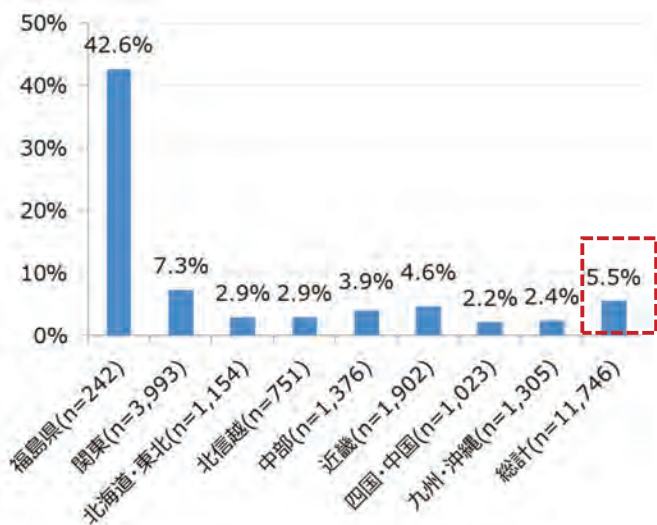
福島県産和牛、北海道産和牛及び茨城県産和牛の枝肉価格と小売価格の比較



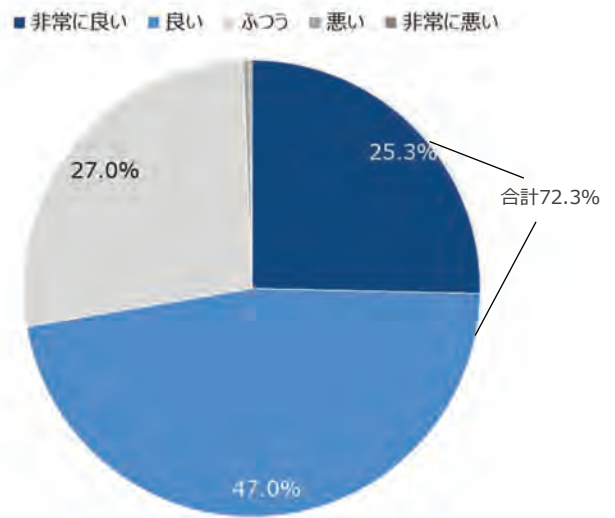
福島県産牛肉の消費者の購買経験と評価（アンケート調査）

- 全国の消費者のうち、福島県産牛肉を購入した経験がある消費者は5.5%であった。
 - 福島県内居住者では42.6%である。なお、県外では「国産牛」として販売されている可能性がある。
- 購買経験者に福島県産牛肉の評価を尋ねたところ、「非常に良い」「良い」が約7割を占めた。

福島県産牛肉の購買経験



福島県産牛肉の購買者の評価 (n=647)

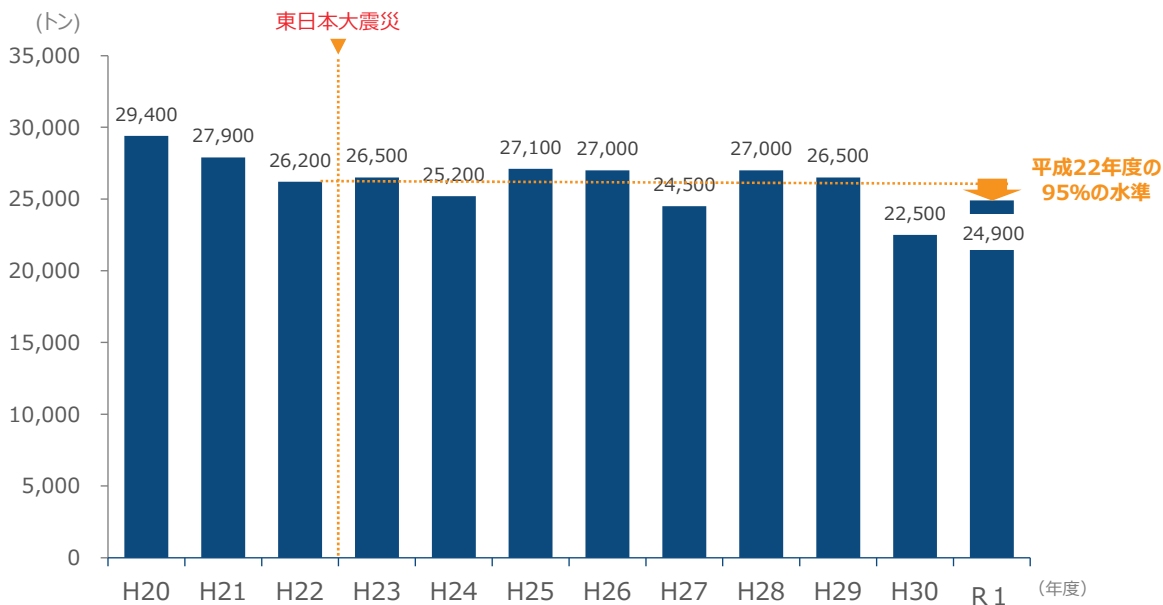


※購買経験率=1度でも購買したことがある人数/回答者数
 ※記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていたら購買経験なしとなる。

※福島県産牛肉を買ったことがある回答者のみに尋ねた質問。

- 令和元年度の福島県産桃の出荷量は、平成22年度の95%であった。

福島県産桃の出荷量推移

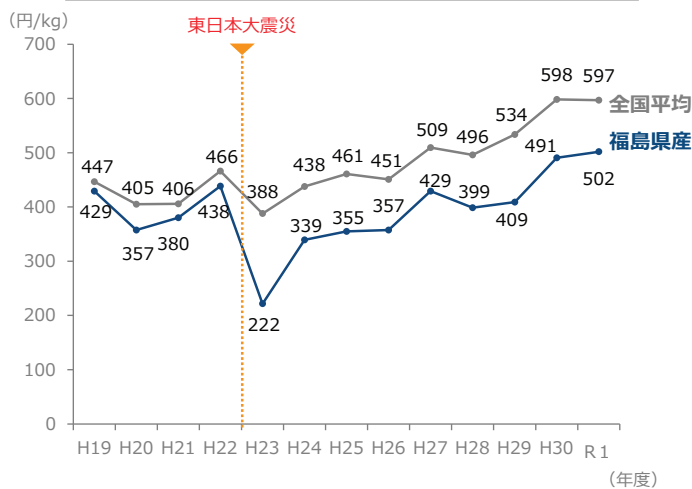


データ出所：農林水産省「果樹生産出荷統計」

福島県産桃の市場価格の推移（概要調査）

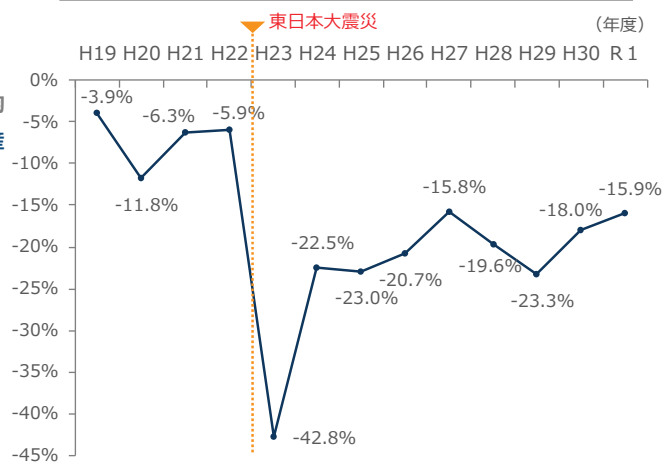
- 東京都中央卸売市場での福島県産桃の平均単価は、震災直後に下落した後、徐々に回復。
- 全国平均との価格差が平成23年度に拡大し、令和元年度においても震災前よりも大きな価格差が残っている。

東京都中央卸売市場における平均単価の推移



※令和元年度は、令和元年12月までの実績を使用。

全国平均と福島県産の価格差の推移

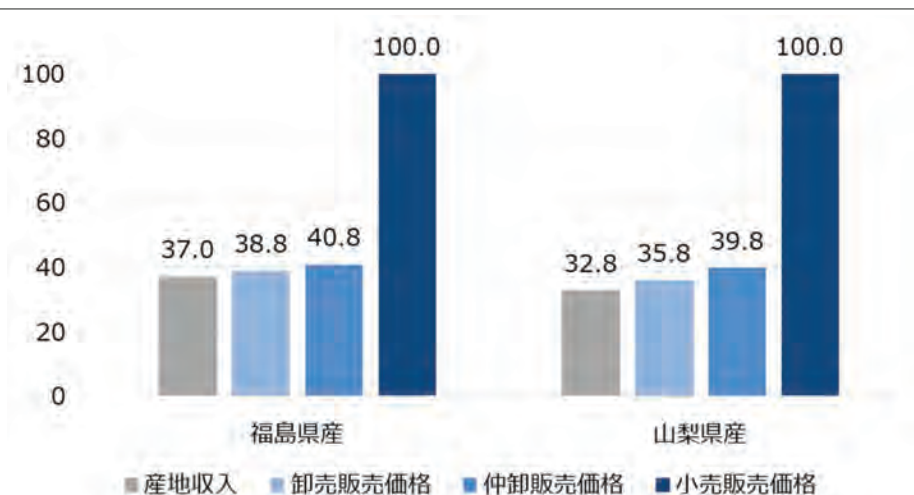


※福島県産と全国平均の価格差を、全国平均の価格で割った値。
例えば、福島県産が全国平均より1割安ければ-10%となる

データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」（7月～9月の平均価格）

- 山梨県産桃の比較では、今年度調査した事例において、流通段階ごとの価格形成に明確な違いは見られなかった。
 - 首都圏の卸売市場から高級果物専門店に至る事例であり、調査対象の小売店は取扱産地を固定しているわけではなく、日々の状況を見て入荷していた。
 - 小売業者では段ボールからトレーへの詰め替え等の作業をしており、マージンを高く設定。

桃の価格形成事例

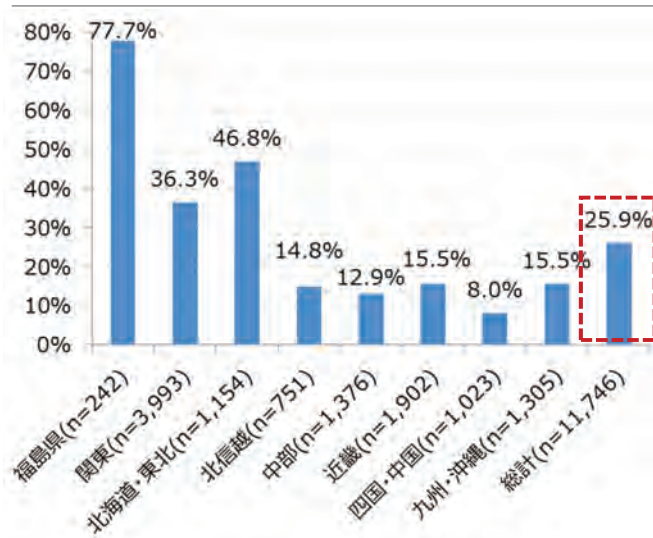


※数値はそれぞれの調査時点で、小売価格を100とした指数。
 ※調査を行った8月上旬に、調査対象事例において福島県産品が8日間、山梨県産品が3日間流通しており、各日の指数を平均してグラフ化した。

福島県産桃の消費者の購買経験と評価（アンケート調査）

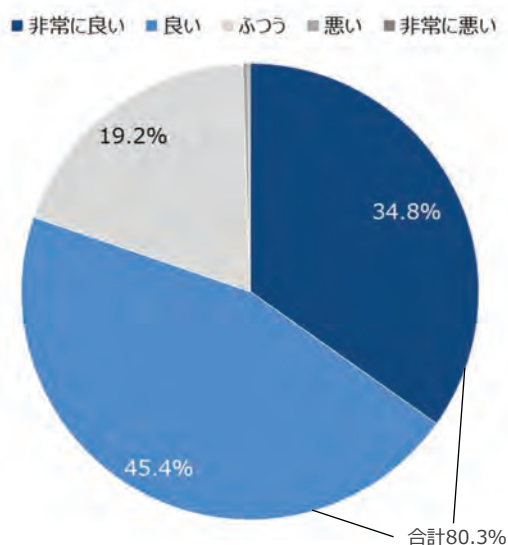
- 全国の消費者のうち、福島県産桃を購買した経験がある消費者は25.9%であった。
 - 福島県内居住者では77.7%、北海道・東北居住者では46.8%、関東居住者では36.3%であった。
- 購買経験者に福島県産桃の評価を尋ねたところ、「非常に良い」「良い」が約8割を占めた。

福島県産桃の購買経験率



※購買経験率=1度でも購買したことがある人数/回答者数
 ※記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていたら購買経験なしとなる。

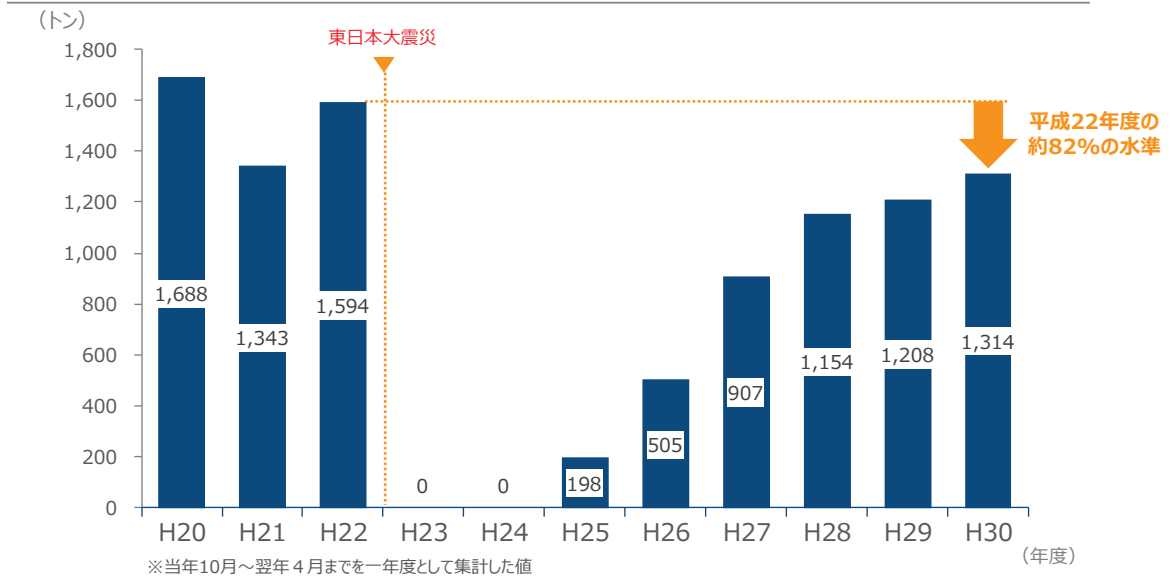
福島県産桃購買者の評価 (n=3,043)



※福島県産桃を買ったことがある回答者のみに尋ねた質問。

- 福島県産あんぼ柿は、震災直後に出荷を自粛した後、平成25年度に出荷を再開して以降、徐々に出荷量が回復している。
- 平成30年度の出荷量は、平成22年度実績の約82%となっている。

福島県産あんぼ柿の出荷量の推移



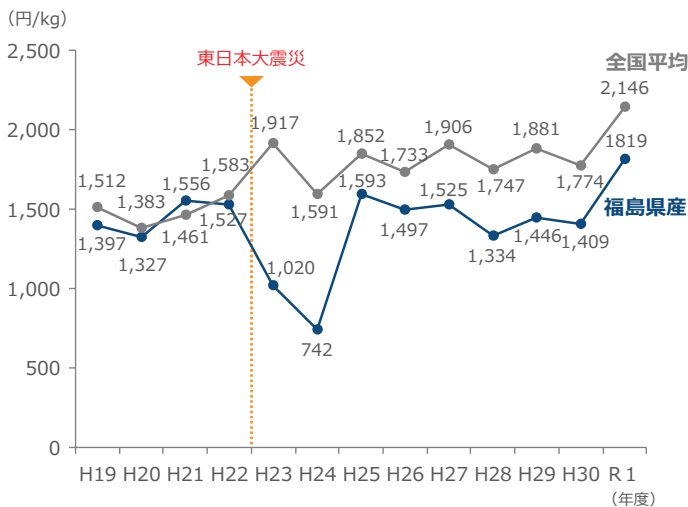
データ出所：福島県調べ

福島県産あんぼ柿の市場価格の推移（概要調査）

干し柿のデータ

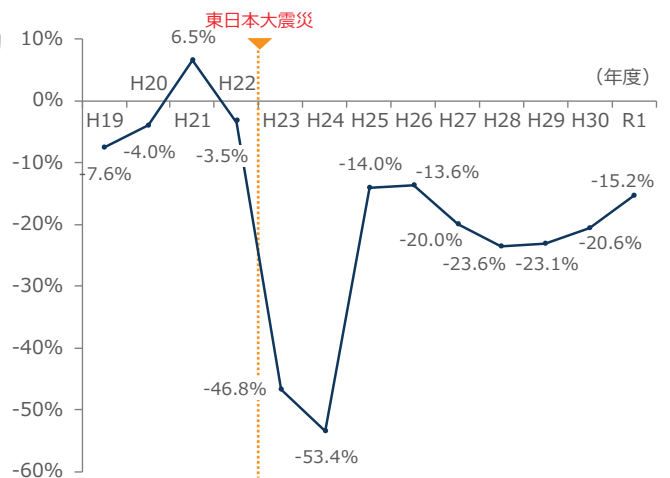
- 令和元年度の東京都中央卸売市場での福島県産干し柿の平均単価は、全国平均と同様に上昇した。
- 震災前は全国平均とほぼ同程度の価格であったが、近年は全国平均を下回る水準で推移している。

東京都中央卸売市場における平均単価の推移



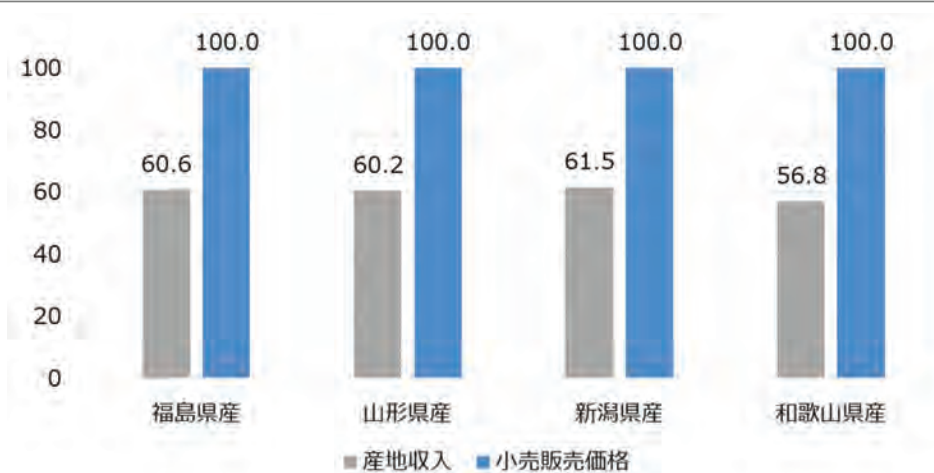
データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

全国平均と福島県産の価格差の推移



- 山形県産あんぼ柿、新潟県産あんぼ柿や和歌山県産あんぼ柿との比較では、今年度調査した事例において、流通段階ごとの価格形成に明確な違いは見られなかった。
 - 下図の事例では、量販店が贈答用のあんぼ柿を産地の集出荷業者から直接仕入れており、年末のギフトシーズン中、小売価格も仕入価格も一定としている。
 - 福島県産あんぼ柿・他県産あんぼ柿共に、小売業者の利幅は全商品でほぼ同じに設定されていた。

あんぼ柿の価格形成事例

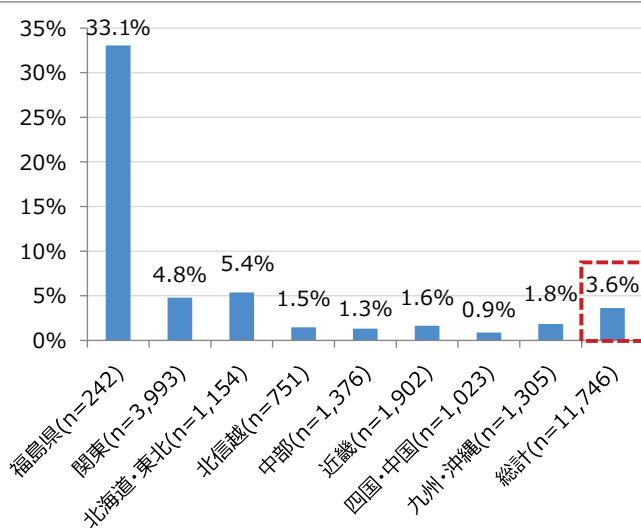


※数値はそれぞれ小売価格を100とした指数。
 ※福島県産は2商品の平均、福島以外は1商品の値。

福島県産あんぼ柿の消費者の購買経験と評価（アンケート調査）

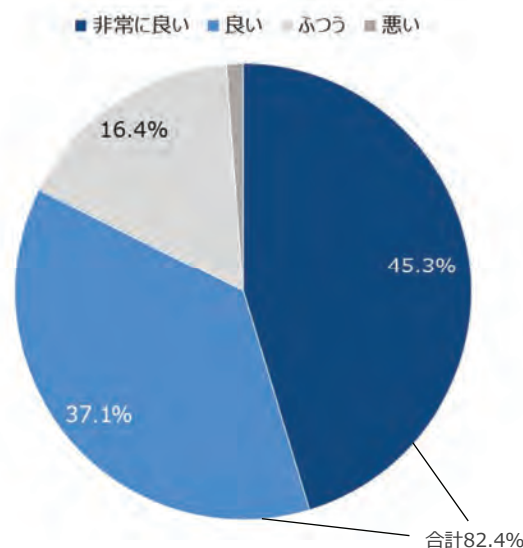
- 全国の消費者のうち、福島県産あんぼ柿を購入した経験がある消費者は3.6%であった。
 - 福島県内居住者では33.1%である。なお、北信越・中部以西への出荷は限定的と考えられる。
- 購買経験者に福島県産あんぼ柿の評価を尋ねたところ、「非常に良い」「良い」が8割以上を占めた。

福島県産あんぼ柿の購買経験率



※購買経験率=1度でも購買したことがある人数/回答者数
 ※記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていたら購買経験なしとなる。

福島県産あんぼ柿購買者の評価 (n=426)



※福島県産あんぼ柿を買ったことがある回答者のみに尋ねた質問。

福島県産ピーマンの出荷量の推移（概要調査）

米 牛肉 桃 あんぽ柿 **ピーマン** ヒラメ 他の品目

- 福島県産夏秋ピーマンの出荷量は減少傾向にあったが、平成26年度以降はおおむね横ばいで推移している。
- 平成30年度の出荷量は、平成22年度の約77%であった。

福島県産夏秋ピーマンの出荷量の推移



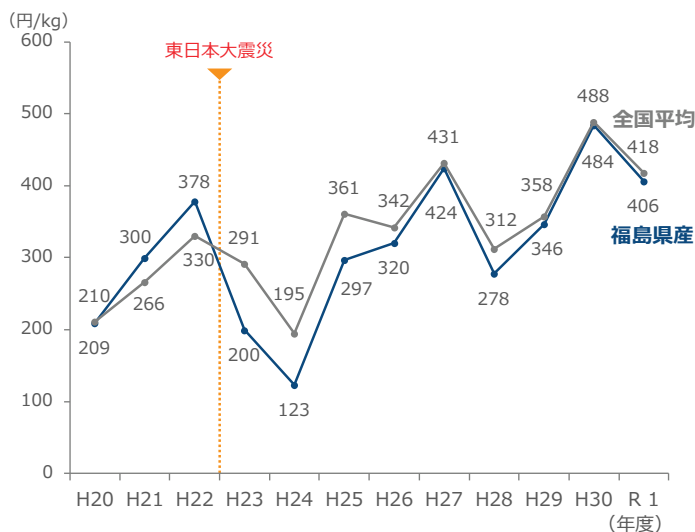
※夏秋ピーマン：主たる収穫・出荷期間が6月～10月。

データ出所：農林水産省「野菜生産出荷統計」

福島県産ピーマンの市場価格の推移（概要調査）

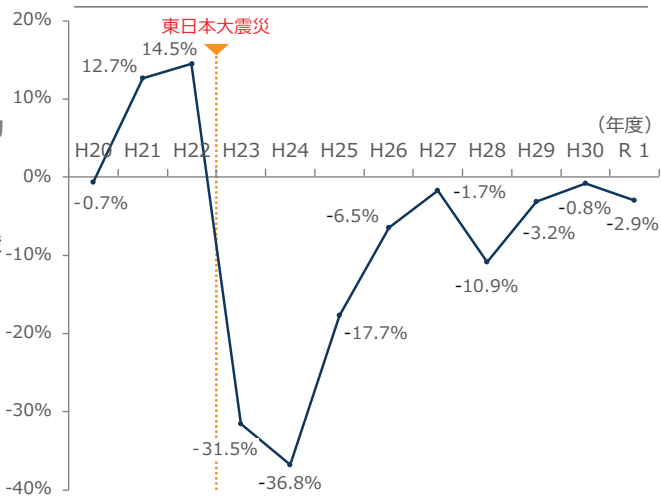
- 東京都中央卸売市場での福島県産ピーマンの平均単価は、平成29年度から令和元年度にかけて、全国平均に近い水準で推移。
- 震災前の2年間は全国平均より高単価であったが、震災前の水準までは回復していない。

東京都中央卸売市場における平均単価の推移



※令和元年度は、令和元年12月までの実績を使用。

全国平均と福島県産の価格差の推移

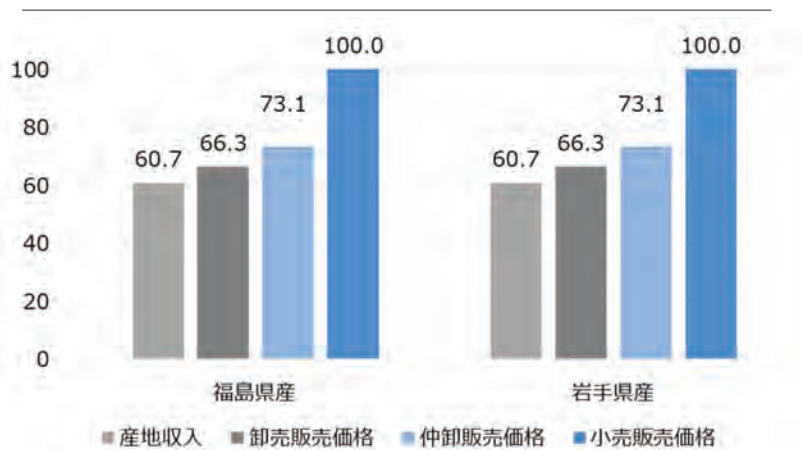


※福島県産と全国平均の価格差を、全国平均の価格で割った値。
例えば、福島県産が全国平均より1割安ければ-10%となる。

データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

- 岩手県産ピーマンとの比較では、今年度調査した事例において、流通段階ごとの価格形成に差はなかった。
 - 本事例で調査した小売店では福島県産と岩手県産を併売しており、いずれの産地でも同一の小売価格で販売していた。
 - 卸売業者や仲卸業者においても、いずれの産地でも販売価格は同一であり、全ての流通段階で福島県産と岩手県産の価格は同一であった。

ピーマンの価格形成事例

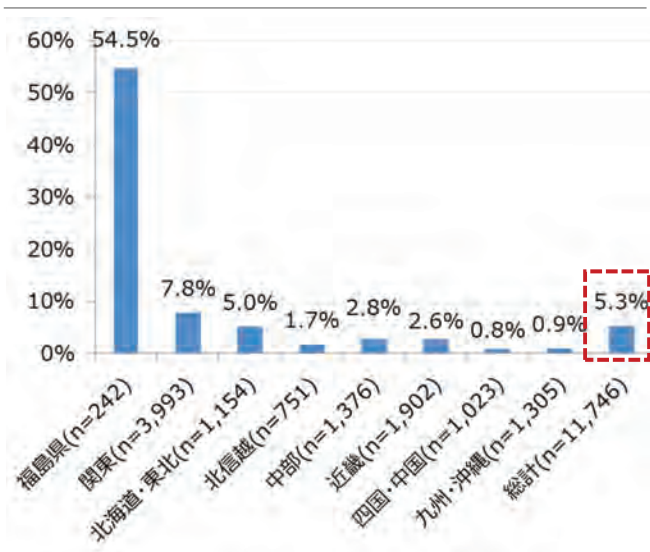


※数値は、産地ごとに小売価格を100とした指数を3回ずつ算出した平均値。

福島県産ピーマンの消費者の購買経験と評価（アンケート調査）

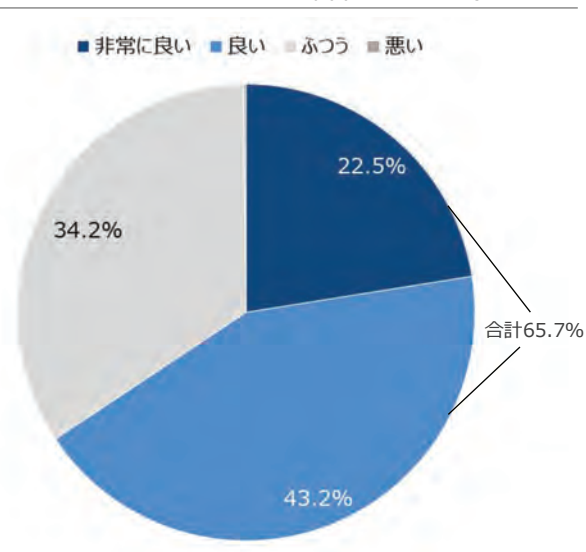
- 全国の消費者のうち、福島県産ピーマンを購入した経験がある消費者は5.3%であった。
 - 福島県内居住者では54.5%であった。
- 購買経験者に福島県産ピーマンの評価を尋ねたところ、「非常に良い」「良い」が6割以上を占めた。

福島県産ピーマンの購買経験率



※購買経験率=1度でも購買したことがある人数/回答者数
 ※記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていたら購買経験なしとなる。

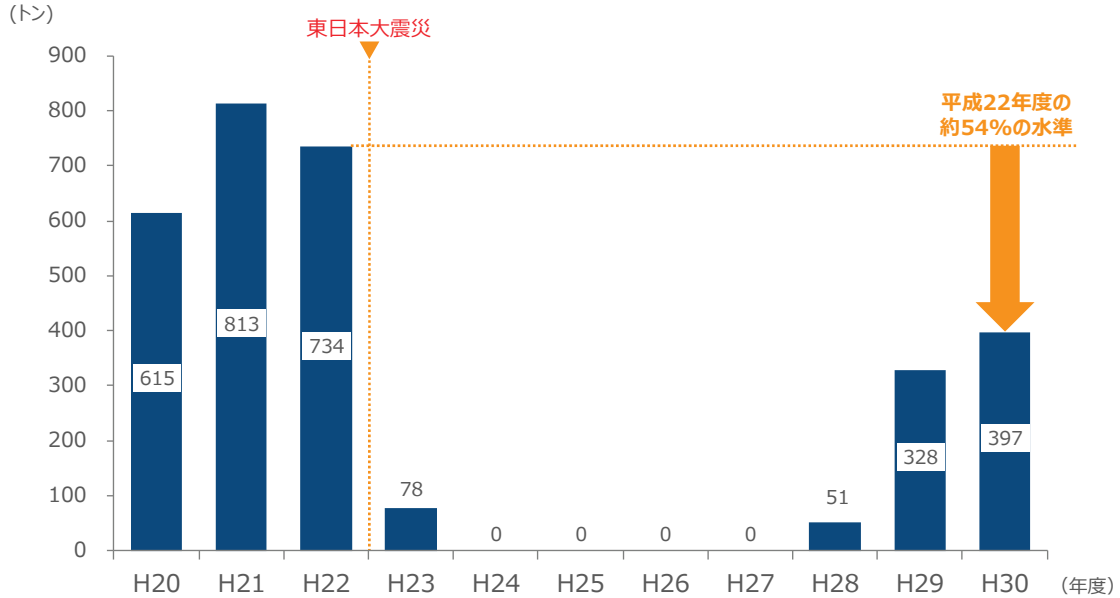
福島県産ピーマン購買者の評価 (n=623)



※福島県産ピーマンを買ったことがある回答者のみに尋ねた質問。

- 福島県におけるヒラメの漁獲量は、震災直後大幅に減少した後、漁獲がほぼない状態で推移したが、平成30年度には、平成29年度より69トン（約21%）漁獲量が増え、平成22年度の約54%まで回復している。

福島県におけるヒラメの漁獲量の推移

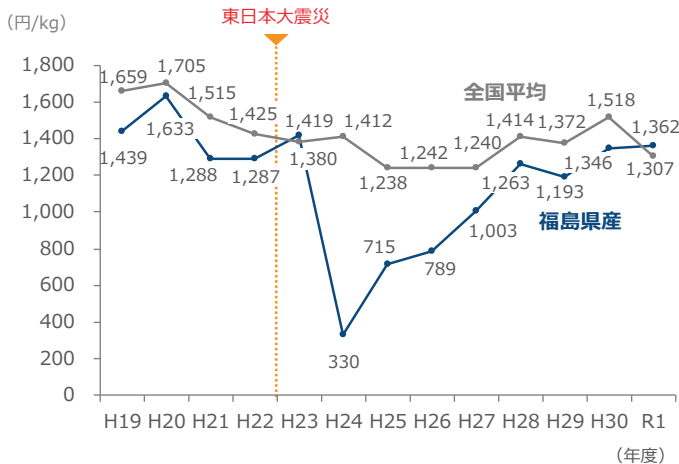


データ出所：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」

福島県産ヒラメの市場価格の推移（概要調査）

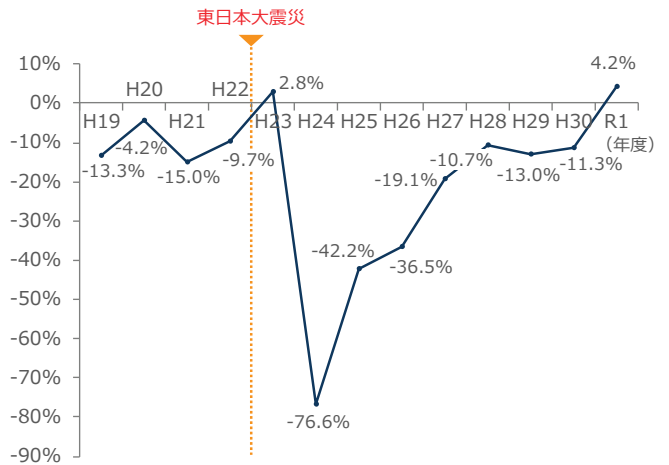
- 東京都中央卸売市場での福島県産ヒラメの平均単価は、震災直後に大きく下落した後徐々に回復。令和元年度は全国平均が低下したこともあり、全国平均と同程度の平均単価となった。
- 全国平均価格との価格差は縮小傾向にある。

東京都中央卸売市場における平均単価の推移



※令和元年度は、令和元年12月までの実績を使用。

全国平均と福島県産の価格差の推移



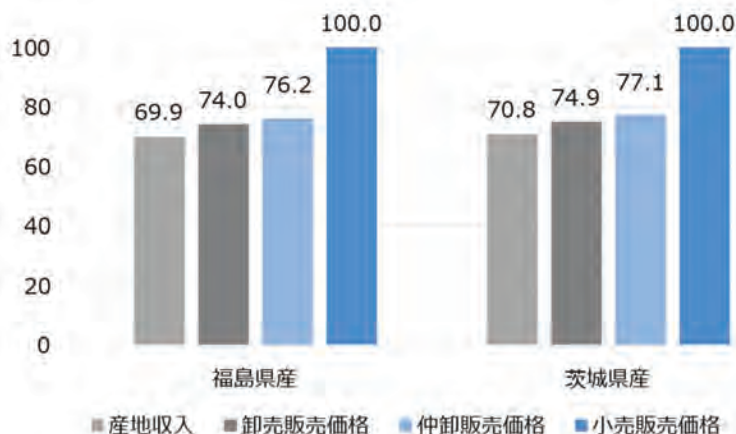
※福島県産と全国平均の価格差を、全国平均の価格で割った値。例えば、福島県産が全国平均より1割安ければ-10%となる

※ グラフ中の「福島」は福島県内の事業者が市場出荷した水産物に関する集計値を表し、他県で漁獲され、福島県内の事業者が出荷したものを含む。

出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

- 茨城県産ヒラメとの比較では、今年度調査した事例において、流通段階ごとの価格形成に明確な差は見られなかった。
 - 卸売業者や仲卸業者の手数料率は産地に関わらず一定であった。
 - 調査した小売業者へのヒアリングでは、震災前から値付けの方法は変えていないとのこと。

ヒラメの価格形成事例

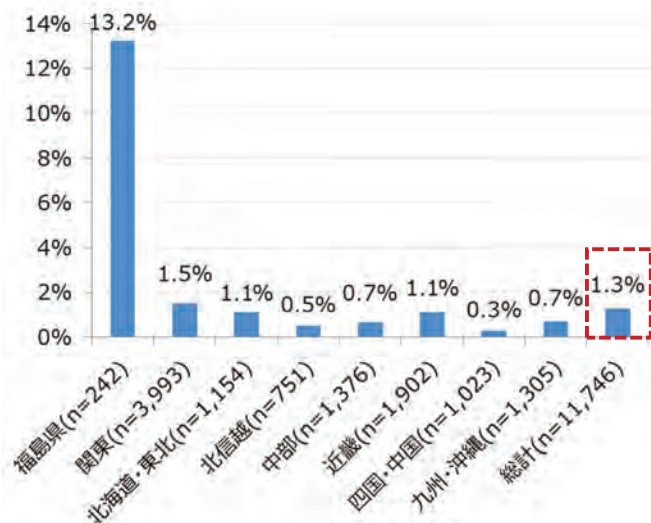


※数値は、産地ごとに小売価格を100とした指数を3回ずつ算出した平均値。
 ※本事例における「産地収入」は、卸売会社の仕入価格であり、産地仲卸業者の販売価格を指す。

福島県産ヒラメの消費者の購買経験と評価（アンケート調査）

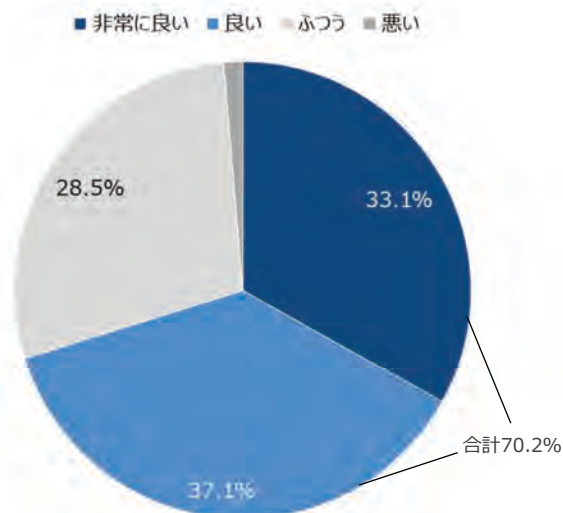
- 全国の消費者のうち福島県産ヒラメを購入した経験がある消費者は1.3%であった。
 - 福島県内居住者では13.2%であった。
- 購買経験者に福島県産ヒラメの評価を尋ねたところ、「非常に良い」「良い」が約7割を占めた。

福島県産ヒラメの購買経験率



※購買経験率=1度でも購買したことがある人数/回答者数
 ※記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていたら購買経験なしとなる。

福島県産ヒラメ購買者の評価（n=151）



※福島県産ヒラメを買ったことがある回答者のみに尋ねた質問。